

令和5年度 第1回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA部会 議事要旨

日 時：令和5年5月22日（月） 14：00～15：08

場 所：WEB会議

構 成 員：18名

出 席 者：14名

大畑尚子(中部病院血液・産科)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センター放射線科)、屋宜孟(南部医療センター・こども医療センター小児血液・腫瘍内科)、中里哲郎(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、山本真充(南部医療センター・こども医療センター小児看護専門看護師)、岩崎政志(森川特別支援学校)、金城正樹(沖縄県教育庁保健体育課)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、浜田聡(琉大病院小児科)、銘苺桂子(琉大病院産婦人科)、比嘉泉(琉大病院看護師)増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：4名

佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCLS*休職中)、崎間恒哉(沖縄県教育庁県立学校教育課)、森島聡子(琉大病院第二内科)、當銘保則(琉大病院整形外科)、

陪 席 者：3名

岸本 こずえ(沖縄県教育庁保健体育課)、
比嘉 優花(琉大病院がんセンター)
石川 千穂(琉大病院がんセンター)

【報告事項】**1. 令和4年度 第4回小児・AYA部会 議事要旨(2月13日)**

浜田委員より、資料1に基づき説明があり、承認された。

2. 小児・AYA部会 委員一覧

浜田委員より資料2に基づき、委員について報告された。新委員よりそれぞれ自己紹介があった。

3. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧

浜田委員より資料3に基づき、今年度委員について報告された。

4. 妊孕性温存療法について**(1) 妊孕性温存療法研修会について**

資料4-(1)に基づき、銘苺委員が講師をつとめ、県内各施設で開催している妊孕性温存療法研修会の進捗状況が報告された。本日、ハートライフ病院にて開催とのことだった。

(2) 県の助成について

外間委員より、資料 4-(2) に基づき、申請状況が報告された。また、妊よう性温存療法に係る助成の予算が上限に達した場合、年度途中で受付を修了することがあることが説明された。

(3) 琉大の実績について

銘苅委員より、資料 4-(3) のとおり、報告された。

(4) がん治療施設について

銘苅委員より、資料 4-(4) のとおり、報告された。

5. 琉大病院の長期フォローアップ外来について

浜田委員より、資料 5 に基づき、長期フォローアップ外来の整備に関する報告があった。資料 18 ページのような手順で、受診当日までに、対象患者への健康調査票が発送され、健康調査票をもとにした連携各所での事前打ち合わせ等を行う。iPad も導入され、以下①～⑦の目的で使用される。①長期フォローアップ手帳(アプリ)、②治療サマリーの情報共有(医療者間)、③問診票、④移植後のケア方法を動画で指導、⑤健康調査票(患者とのメール連絡)、⑥長期フォローアップ外来の流れや指導方法のマニュアル(看護師)、⑦患者リスト管理

【協議事項】

1. 今年度の委員について

資料 2 のとおり、承認された。

増田委員より、患者関係委員が現在一名なので、もう一名の加入が提案された。金城委員より、後日推薦頂けることとなった。

2. 今年度の部会長・副部会長の選定について

前年度に引き続き、部会長は浜田委員、副部会長は銘苅委員と森島委員ということで承認された。

3. 第 4 期沖縄県がん対策推進計画(協議会案)について

増田委員より、当日資料に基づき提案があり、個別施策や指標に関する意見を求められた。個別施策の方は、記載の内容以外、特に意見はでなかった。山本委員から、指標に入れる医療者の数に、認定看護師の数も含めてはどうかとの意見があった。屋宜委員より、初期アウトカム 4 番の専門医の項目について、小児の血液専門医は取得が難しいので、日本血液学会血液専門医も入れるのはどうかとの意見があった。増田委員より、部会終了後も、引き続き事務局までメールで提案等を頂けるようにとの依頼があった。

4. 今年度の部会活動計画について

資料 6 の沖縄県がん対策推進計画の小児・AYA 分野がまとまってきたら検討することとなった。

5.アピアランス支援モデル事業の公募について

増田委員より資料8に基づき、アピアランス支援の新規事業の内容と、検討されている啓発活動等の内容について説明があった。こういうことを行っていったらよいのではないかな等提案があれば、事務局まで連絡頂ければとのことだった。

6.『おきなわ 小児がん相談マニュアル』の改訂について

以前に、資料9の要望書のとおり、「がんサポートハンドブック」の編集委員会に、小児がん支援に関する情報を掲載することが要望されていたが、今年度のがんサポートハンドブックに掲載することは、ページ数の関係から見送られたため、どのように対応すべきか、協議された。浜田委員より、九大のサポートブックを例に挙げ、がんサポに盛り込むことがページの関係上難しいようであれば、別で作成するのも良いかもしれないとの発言があった。

4. 次回開催

7月開催予定で、事務局から日程調整を依頼することとなった。

以上